

読む力を育てる話し合い活動の実践

東広島市立西条小学校 横田 優美

1 実践の趣旨

本実践は、読む過程における話し合い活動の在り方に視点をあて、確かな読む力の育成について追究したものである。「児童がたくさん読み、思考したことを表現する相互交流の話し合いを取り入れた授業を通して、読む力は育成できる」「読む過程における話し合い活動の指導を適切に行えば、相互交流の話し合いが活発になり、読む力は育成できる」という考えをもとに実践を行った。実践前に気をつけた課題としては、「感想交流の話し合いのもち方を検討する」「話し合いで教師が適切に支援できる力をもつ」「児童が読みとったことを他の児童に伝えられるような話し方を指導する」「作品を大きく捉えられるような読み方を指導する」といった文学教材の読み方についての指導が挙げられる。実践を振り返り今後の授業改善に生かしていく。

2 実践の概要

(1) 単元名

ようこそ新美南吉の世界へー「ごんぎつね」ー教材「ごんぎつね」(東京書籍4年下)

(2) 本単元の目標

関心・意欲・態度	物語に興味をもち、伝えたいことを明らかにし、工夫して本の帯をつくらうとしている。
読むこと	読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。
言語事項	文と文との意味のつながりを考えながら指示語や接続語を使うことができる。

(3) 児童の姿

- 児童は、『夏のわすれもの』『世界一美しいぼくの村』で、人物の気持ちや場面の様子に注意して、物語の出来事の流れや盛り上がりを読み取ってきた。叙述に即して自分の考えを話したり書いたりすることができるようになってきている。10月のテストによる説明的文章の要旨を問う問題で、正しく読み取った児童は90%だが、内容に対して自分の考えを説明する問題では、53%の正答だった。
- 文学教材を読むために必要な読みの視点(あらすじ、登場人物、出来事の流れ、物語のもり上がり、心に残ったことなど)を意識して読み取る学習をしている。さらに叙述を根拠として自分の読みを説明する力をつけていく必要がある。

(4) 単元について

- 本単元では、まず教材文『ごんぎつね』で場面の移り変わりや人物の気持ちの変化について読み取り、読み取ったことを本の帯にまとめさせる。次に他の新美南吉作品を読み、学習を生かし本の帯を作り、4年生や保護者に紹介するという内容である。これらの学習を通し、読み取った内容の根拠を叙述から考える力、読み取った内容をまとめるときに適切な言葉を選ぶ力、選んだ言葉を使って心に残ったことをまとめて伝える力をつけていくことが主なねらいである。
- 教材文『ごんぎつね』は、「起・承・転・結」がはっきりした六章で構成されており、時や場所を表す言葉が具体的に書かれているので構成がとらえやすい。ひとりぼっちの小ぎつねのごんが兵十と心を通わせようとしながらも通わせきれないせつなさを描き、わかり合うことの難しさそれゆえの喜

びや悲しみを訴えかけてくる作品である。この時期の児童にとって感受性をより豊かにできる作品だと考える。

- 教材文を読み取った後他の新美南吉の作品を読み、本の帯を作って同学年の児童に紹介することは、読書力を伸ばし、他者に伝える力も高められるという点で有効である。

(5) 指導の手立て

<課題設定について>

- 単元の最後に、新美南吉の作品に帯をつけるという課題を設定した。そのためにまず、本の帯の学習を行う。本の帯にはどのようなことが書かれているのか実際のものから学ばせる。そして、「ごんぎつね」に帯をつけてみる。本の帯を書いて「ごんぎつね」を紹介するためには、あらずじ、作品のよさ、読み手に伝えたい言葉を考えなければならない。そこで教材を読むという意欲と学習の見通しをもたせる。また、他の作品を紹介することで読書活動への意欲ももたせる。

<かかわり合いについて>

- 本単元では次の三つの交流を仕組み、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる力をつけていく。①初読で本の帯をつくり交流することを通して学習課題をつくっていく。②教材文を読み取る場面で交流する。ごんの視点で読みとっていくために「ごん日記」を書き、一人一人の読みを交流し、それを基に本の帯を完成させる。完成した本の帯を交流することを通して一人一人の感じ方の違いに気付かせていく。③初読で作った本の帯と学習後につくった本の帯の違いを交流することで読みの変化を学ばせる。



<表現の場について>

- 読み取りの学習後、初読で作った本の帯を見直す活動を取り入れ、学習前と学習後を比べながら言葉の検討を行い再構成させていく。その際なぜそのように変えていったかという根拠を明らかにさせ、読みの変化を一人一人が意識できるようにしていく。また、「ごんぎつね」で習得したことを活用して、新美南吉の他の作品の帯を作成する。その帯を相互評価したり他の学級に発信したりすることで読書活動への意欲をもたせたり、この単元の学習について振り返らせたりする。

<話し合い活動について>

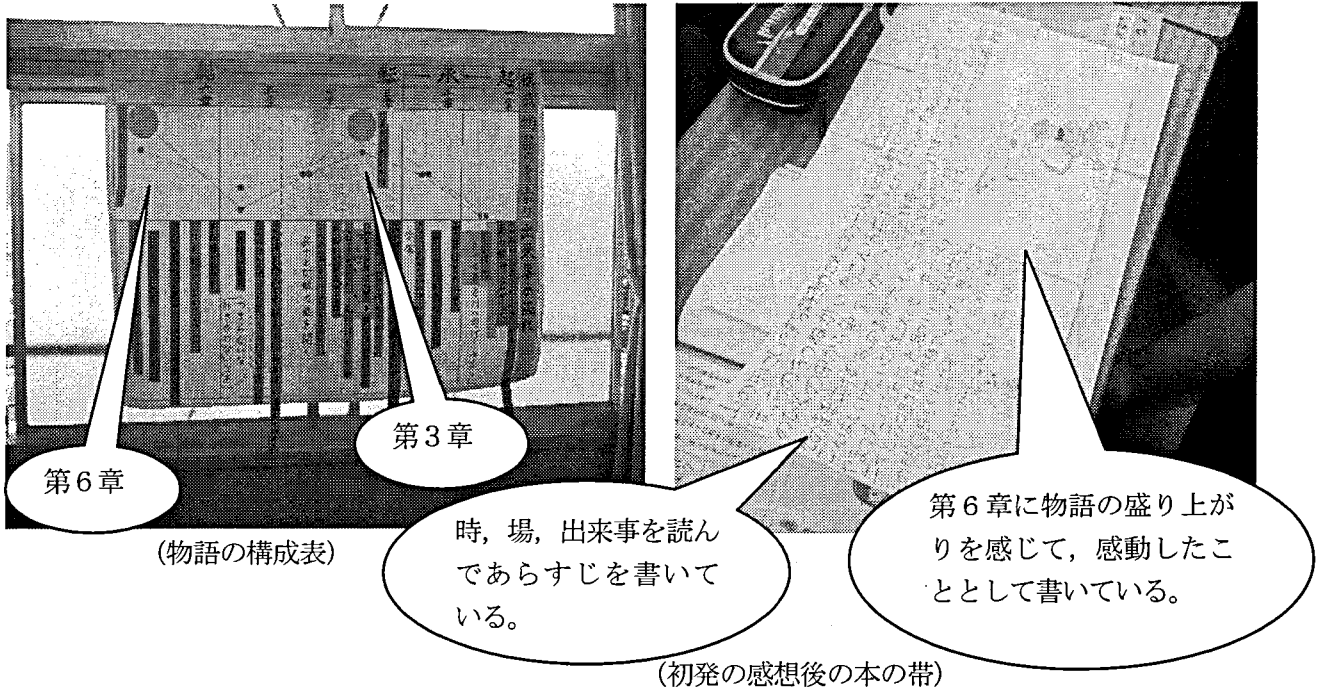
- 文学教材「ごんぎつね」に本の帯を作成するという言語活動を行った。物語を読む(出来事の流れ、物語の盛り上がりなどを読み取る)力を育てるというねらいで本の帯にはあらずじ、物語の感動場面などを書かせる。物語の読み取りではごんの気持ちの変化を「ごん日記」の形で書かせ、読み取りの場面で、考えを比較し、読みを深めたり広げたりさせるために「ごん日記」をもとにした話し合い活動を行う。本の帯に表す場面で、内容・表現に関わる視点で、本の帯をもとに話し合い活動を行う。
- 「ごんぎつね」の学習を生かし、他の新美南吉作品を読み、本の帯を作成させる。作品を読み比べることで新美南吉の文学にふれさせ、その後、作品内容や作品で伝えたかったことなどを話題として話し合い活動を行う。

(6) 指導計画

次	学 習 活 動	評 価							
		観 点		評 価 規 準 △支援を要する児童への手立て	評価方法				
		関	読 言						
一次 (2)	<p>「ようこそ新美南吉の世界へ！」 ～「ごんぎつね」～</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の学習計画を立て、見通しをもつ① 本の帯についての概要を知り、イメージをもって作り方を学ぶ。① 	◎	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 本の帯をつくって新美南吉の作品を紹介することに興味をもって取り組もうとしている。 △実物を使って本の帯を説明し、意欲の喚起を図る。 	行動観察 ワークシート 自己評価		
二次 (10)	<p>「ごんぎつね」の本の帯をつくらう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 全文を通読し初発の感想から本の帯をつくる。① 本の帯を交流し、学習課題をつくる。① 出来事の流れを一本の線で表し内容の大体をつかむ。① 学習課題にそって読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> 1場面 (起) ごんの人物像と兵十へのいたづらを読み取る。① 2場面 (承) 兵十の母の死を知り、変化するごん的心情を読み取る。① 3場面～5場面 (転) 償いを行うごん的心情の変化を読み取る。② 6場面 (結) ごんと兵十の心の交流と結末を読み取る。① 本の帯を修正し、交流した後修正する。② <p>(本時11 / 15)</p> <p>学習して、本の帯の～ところを変えたよ。その理由は、～ことが分かったからだよ。</p> 	◎	◎	◎	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 物語の内容の大体をとらえて自分の感動したことをまとめている。 感動を叙述を基に話している。 時、場、出来事を読み取っている。 登場人物像を読み取り、いたづらをするごんの気持ちを想像している。 場面を対比しながら叙述にそって、ごん的心情の変化を読み取り、その変化を書くことができる。 ごん的心情が変わったところを読み取り、その理由を自分の言葉で説明することができる。 ごんと兵十の関係について、自分の考えをまとめることができる。 自分の読み取ったことの変化を本の帯に表すことができる。 △「本の帯」「ごん日記」の具体的な記述を示したり、交流の友達の見返りを振り返らせたりして自分の力でまとめさせる。 	行動観察 発言 ごん日記 本の帯 自己評価
三次 (3)	<p>「新美南吉」の作品を紹介しよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> 並行読書をおこなっていた中から作品を選んで本の帯をつくる。② 相互交流を行い振り返りをする。① <p>この作品で心に残ったことは～主人公のこの言葉で～に思ったからだよ。</p> 	◎	◎	◎	◎	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを使って、あらすじ、心の残ったところを書いている。 文と文との意味のつながりを考えながら指示語や接続語を使っている。 振り返りの観点ごとに自己評価しようとしている。 △学習の足跡や本の帯などの具体物を基に振り返る。 	行動観察 発言 本の帯 自己評価

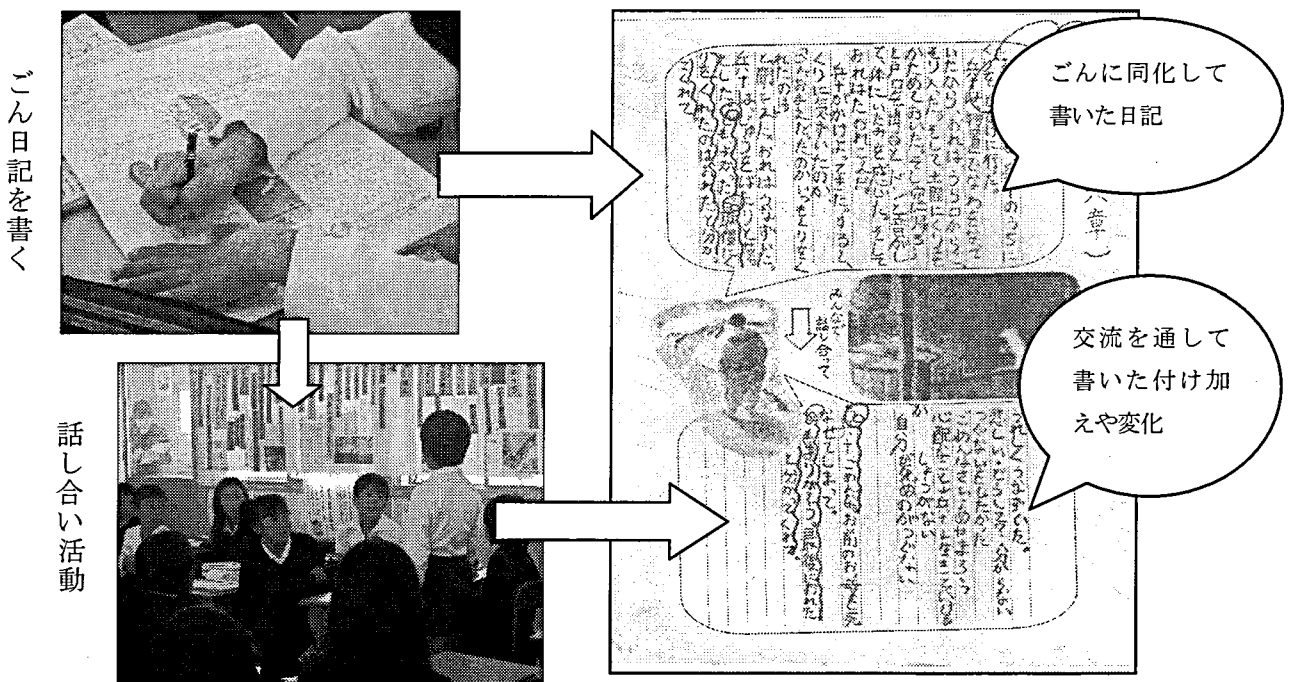
(7) 授業の様子

- 時, 場, 出来事を読み取り, 出来事の流れを一本の線で表して「ごんぎつね」内容の大体をつかみ感動したことを全体で話し合った。その後自分の伝えたい感動を本の帯に表した。



- 読みを深めたり, 広げたりさせるために話し合いで, 一人一人の考えを他者と比較させた。

場面ごとのごんの気持ちを読み取らせるためにごんに同化して「ごん日記」を書かせていった。ごんの気持ちは, 前時の日記と比べながら書くようにさせ, 常に前時の学習と比べながら学習を進めていった。さらに, 一人一人の感じ方の違いに気付く力をつけるために, 「ごん日記」を話し合いで交流し比較させるようにした。一人一人が考えを発言しそれらの考えを整理した後, 意見交流をさせ, その話し合いの後再び個人にかえり, 話し合いから分かったこと, 付け加えたいこと, 変わったことなどを自分の「ごん日記」に書き加えさせた。このことにより, 読みを深めたり広げたりできると考えた。



○ 自分の読みの変化を振り返らせるために、初発で書いた本の帯を見直しをさせたり、ペアで本の帯を交流させた。本の帯を見直したことを説明し、その内容について質問を受けるという応答関係の対話を行った。そのことを通して読み取った内容の変化や文章表現を学ばせ、自分の帯を振り返らせるとともに、よりよい表現方法も見出させた。

読み取ったことを表現する場として「本の帯」という言語活動を選んだ。本の帯を作る活動を通して、読みの視点である物語の構成（出来事の流れやもり上がり、登場人物、時・場、人物関係など）を学習できると考えたからである。本の帯には、①あらすじ②伝えたい心に残ったこと③短い言葉で表す（キャッチコピー）を書かせた。さらに本の帯を自分で見直したり友達と交流したりすることで、自分が伝えたいことはこの表現で伝えられるかを考え、より深く読ませるようにした。見直す際、あらすじや心に残ったことを伝える言葉などに気を付けて見直させ気付いたことを付箋に書き記し、どこの部分を書き直すかを見比べながら言葉を選び書き直していくようにした。交流の時は、帯の文章を見たり、話したりした後、質問を受けながら交流していった。



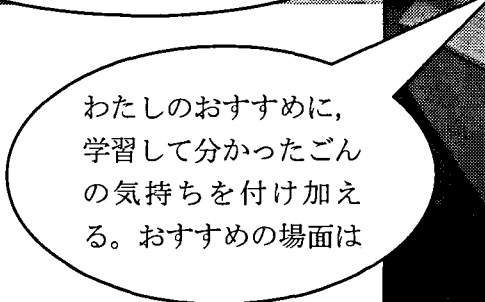
(児童の本の帯の見直し)



(交流する児童の様子)

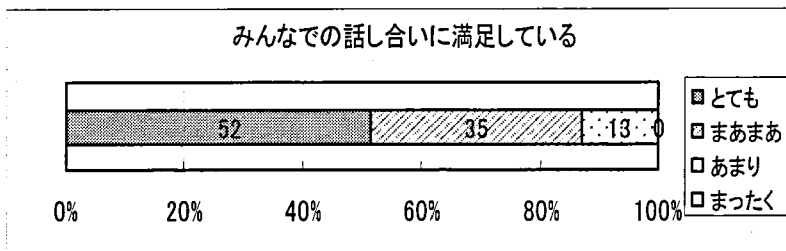


(伝えたい心に残ったことを見直す)

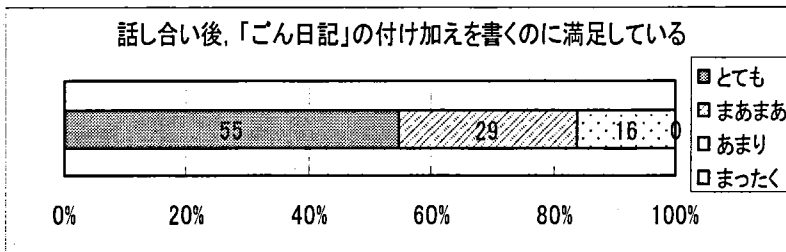


3 成果と課題

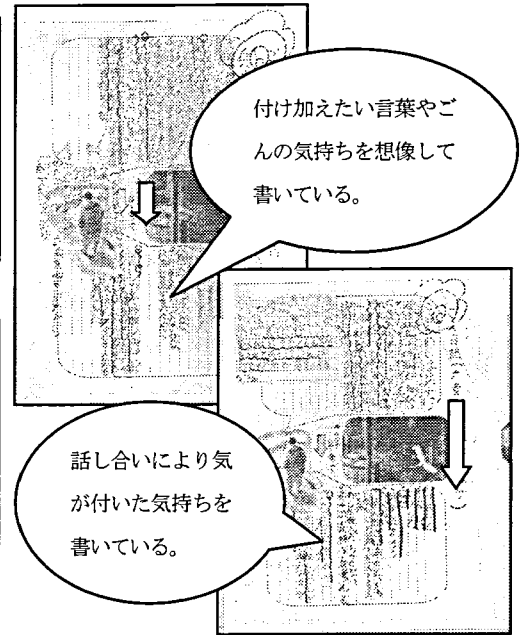
- 児童の学習後のアンケート結果の表1, 表2を見てみると, 話し合いについて87%, 書く活動について84%の児童が肯定的な評価をしている。これは友達の見解を聞き自分の意見との違いを比べる活動に対して意欲を示している結果である。自由記述の欄にも話し合う活動が楽しかったというコメントが見られた。また, ごんぎつねの読み取りを話し合った後では, ごん日記の記述がはじめての読みと比べて詳しくなったり, 変わったりしたものが多くみられた。児童が意欲的に話し合い, 一人一人が考えを比較し再度自分の考えを振り返るといふ学習は, 叙述を根拠にして自分の考えをまとめる力をつけ, 一人一人の感じ方について違いがあることに気付くといふ読む力をつけていくのに効果があったと考える。



〈表1 話し合い活動における児童の満足度〉

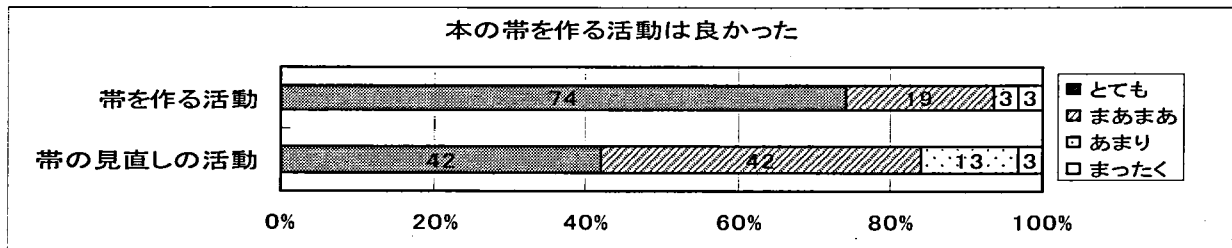


〈表2 話し合い後の「ごん日記」の付け加えにおける児童の満足度〉



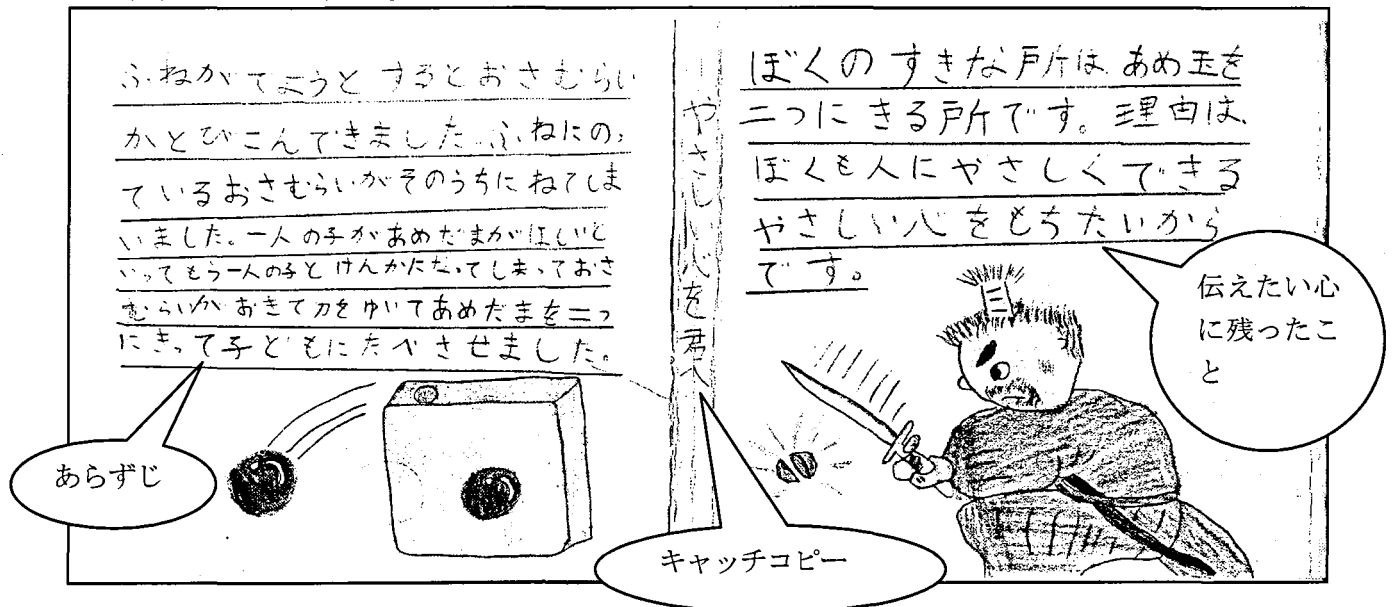
(児童のごん日記の変化)

- 「ごん日記」の形で読み取ったことは, ごんの気持ちに同化しやすく, 読み取りへの意欲の高まりと継続が見られた。「ごん日記」を交流する話し合いから新しい発見があったり読みが広がったりしていると考え。
- 「ごんは, なぜそのように考えたのだろう。」という課題がうまれたときに, ごんの気持ちの根拠となる叙述を導き出そうと思考する児童の姿が見られた。
- 交流を通して本の帯を見直しより良い表現方法に書き直した児童は95%であった。見直した表現の中に「あんないたずらしなきゃよかったとごんの気持ちががすごく変わっていて・・・」「初めていたずらが悪いことだと気づきつぐないをはじめて, ごんが大きくなったから」などの叙述がみられた。これらは学習によって気付いた表現であったり友達が用いた叙述の表現であったりする。表現を見直す活動や他者と交流する活動で比較することによって言葉を吟味したり優れた表現を学んだりすることができた。自分の言葉で書くといふ表現力をつけ, 読み取った内容について考えをまとめるといふ読む力をつけていくのに効果があったと考える。



〈表3 本の帯を作る活動における児童の満足度〉

○「ごんぎつね」以外の新美南吉の作品を読み物語の構成をつかむ学習を生かして本の帯を作ることができた児童は 85%であった。それらの本の帯には図1に見られるように作品の主題にふれるような表現「やさしい心をきみへ（作品名・・あめだま）」やその他にも「正しい生き方をみつける心の残る話（作品名・・鳥右エ門諸国をめぐる）」が見られた。また、図1のように読み取った内容について考えをまとめたような表現「つよそうなおさむらいが人のためにいいことをする話でぼくも人にやさしくできる心をもちたい（あめだま）」も見られた。これは教材の学習が生かした結果と考える。表3に示すように活動を意欲的に行い、教材で学んだことを他の作品を読む際にも活用させることは読む力をつけるうえで効果があったと考える。



〈図1 新美南吉のほかの作品の本の帯〉

- 第三次の学習後に学んだことを活用する学習として新美南吉の作品リストをつくり、一言感想と心に残り度を記入して作品の評価を行った。その後、作品、作者、作品で伝えたかったことなど、学習後の感想交流の話し合いを行った。新美南吉やその作品に対する他者の感想や考えを聞くことで、その後の話し合いが意欲的になった。新美南吉は「命の大切さや気持ちを素直に伝えることの大切さをつたえたかったのではないか」という意見や「死を扱った作品の多さ」に気付いた意見も出てきた。それによって、再度作品を読もうとし読書活動が活発になった。これは「ごんぎつね」の学習で作品の読みが深まったり、広がったりした読みの力が活用できたと考える。
- 話し合いを充実させることが読む力をつけていく上で大切だと考える。話し合いの時に児童一人一人の考えを出させるためにワークシートなどを準備したり、出された意見を整理し、意見をつないでいくように司会をしたりするなど、話し合いの活性化を目指した指導が必要である。交流が充実すれば一人一人の読みも広がっていく。また、今回は児童みんなが同じ「ごん日記」を発言前の準備として用いたが、児童によっては難しかった。今後は、個に対応したワークシートなどの準備をすることも必要である。
- 「ごん日記」のワークシートも個への対応が十分ではなかった。根拠となる叙述を書き込んだり、途中で書き加えたりする工夫が必要だった。それにより、話し合いが活性化すると考える。
- 対話の形態を取り入れた話し合い活動を行ったが、児童の考えを学級全体へ広げるような意見の整理が十分ではなかった。ペアで話し合ったことを学級に広げる手だてや、学級全体での話し合いにおける児童の発言の内容を聞きとる力が重要だと考えた。